

Don Bosco oversea youth Volunteer Group  
ドン・ボスコ海外青年ボランティアグループ

**DBVGE** 

**20年の歩み**  
Since 1991

● **Thanks!**



Until Smiles Fill the Earth

発行 ドン・ボスコ海外青年ボランティアグループ

〒160-0011 東京都新宿区若葉1-22-12 サレジオ管区長館内

Tel. 03-3353-8355 Fax.03-3353-7190 URL <http://www.donbosco.jp.org/sbdbvbg> メールアドレス [sbdbvbg@donbosco.jp.org](mailto:sbdbvbg@donbosco.jp.org)

**地球に笑顔が満ちるまで**





## DBVGの始まりと命名の経緯

DBVG 創立者 司教  
溝部 脩

以前にも書いた覚えがあるが、DBVGの元々の始まり、それは調布のサレジオ・ユースの一室である。12名のかしこまった中学生とキリスト教の勉強をした時にさかのぼる。面白くない勉強をカバーするために配ったコアラのチョコと大きなコーラは断然受け、中学生会は続いた。やがて彼らは大学生になり、ジョッキを傾けて人生を語り合ううちに、ある7月の暑い日、青春を賭けても悔いのない何かをしたいとの提案が勢いに任せて飛び出した。こうして生まれたのが、ドン・ボスコ海外青年ボランティアグループである。

しかし、どうしてDBVGなる発音しにくい名称になったのか。青年の中に紅一点、大学院で国際法を学んでいたNという才媛がいて、NGOのようなボランティアグループにするのが良いという提案があり、手探りで外務省との交渉が始まった。NGOになるには趣意書作成と後援会発足が必要であったが、いずれも大変な作業となった。後援会名簿は当時から協力的であった調布ユースセンターの父母の有志が賛同してくれて割合スムーズに出発できた。

問題は趣意書作成であった。下井草教会の二階の畳の間で6人の侍と魅力たっぷりな才媛、プラスアルファの司祭2名が顔を突き合わせて、何と3ヶ月もかかった。絶対に譲らない中の二人の意見が真っ向から対立して、喧々諤々。趣意書に「キリスト教を基盤におく」と、「ドン・ボスコ」という文言を入れるかどうかが対立の原因であった。市民に開かれたグループとして、キリスト教とかドン・ボスコなどの表現は避けた方が良いというのが某司祭の意見であった。その文言をはずすことは認めがたい、と青年は息巻いた。とうとう才媛が登場してもらうこととなり、頑固な男どもも彼女の前には異論を唱えることはなかった。かくして「キリスト教を基盤とする」「ドン・ボスコ・ボランティア・グループ」ということで一件落ち着いた。しかし、名称が長すぎるとの某神父の意見も取り入れ、4文字の「DBVG」で収まった次第である。

初めから将来が見えた訳ではなく、何か大きなことをやる意気込みが溢れていた訳でもない。何かをしたいという青年たちの想いからともかく出発しようと思ったに過ぎない。今になって思うこと、それは「多くのことを思い迷うより、ともかく実行する方が先決」ということである。



## 大海の中のなくてはならない一滴

サレジオ会日本管区 管区長  
アルド・チプリアニ

ドン・ボスコ海外青年ボランティアグループは20歳の成人式を迎えました。この20年、多くの方々の参加と協力によってDBVGは成長をとげ、活動を続けてこられました。事務局の皆さん、サレジオ会員、物心両面の支援を下さる皆さん、受け入れ側の現地の方々、そしてボランティアの若者、皆さんが共にこの活動を支え、作ってきました。さまざまな苦労や犠牲もありました。しかし、皆さんの惜しみない働き、捧げた時間、差し伸べた手に、神様はさらに多くの恵みをもって応えてくださったと感じないではいられません。

20年前、当時、管区長であった溝部司教様の呼びかけに賛同した人々が集まり、DBVGは発足しました。以来、東ティモール、ボリビア、フィリピン、パプア・ニューギニア、ソロモン諸島などでのボランティア活動を通して、若者たちはさまざまな体験をし、多くの人と出会い、世界の人々に心を向けることができました。

69億人が暮らし、貧困、紛争、環境問題、さまざまな社会悪の絶えないこの世界で、私たちが実際にできることは大海の一滴のような小さなことかもしれません。しかし、一人の若者が見知らぬ国で、仲間たちと分かち合い、人々と笑顔で心を通わせ、友だちになり、共に生活し働く体験は、人間の真実の体験、宝物です。その一滴は、豊かな大海をつくりあげます。

言葉も、生活も、考え方も違う者同士が、相手を受け入れようと大きく心を開く、耳を傾けあう。これは私たちの社会が、世界が、切実に必要としていることではないでしょうか。DBVGの体験を通して、多くの若者が、相手を受け入れ、自分も受け入れられた体験をし、そこから何かが始まる。一歩を踏み出したからこそ、そこにある希望や光を発見できたのではないのでしょうか。

DBVGを体験した若者の皆さん、神様が皆さんの心に託されたその光を信じてください。社会や教会で、家庭で、周りの人々のなかで、それを輝かせ、分かち合い、成長させてください。神様は一人ひとりにいのちを下さり、一人ひとりに使命を与えておられます。より良い世界をつくりあげるために、一人ひとり、小さくてもなくてはならない存在なのです。そのような仕える生き方をすると、私たちは大きな喜びを味わうでしょう。

「喜んで働く人を神は愛されます。」(ドン・ボスコ)

ドン・ボスコ海外青年ボランティアグループ、20周年おめでとうございます！

## 素晴らしい体験、素晴らしい出会い

初代事務局長  
アキレ・ロロピアナ



いよいよDBVGも成人式を迎えることになりましたね。おめでとうございます。20年の間、関わった方々にお礼を申し上げます。わたくしも初期から、9年間、DBVGとかかわり、人間のことで言えば、誕生、幼児期、児童期、一番かわい時期と同時に、一番心配の多い時期をDBVGとともに過ごしました。サレジオ会員としての人生の大きな部分だと思っています。

1991年、活動の現場を探るために初めてパプア・ニューギニアとフィリピンを視察したことを思い出します。1994年、ソロモン諸島の土を踏んだ最初の日本管区サレジオ会員となったことを誇りに思います。その時から数年、毎年、ボリビアを含めて、四つのグループを派遣することができました。素晴らしい体験、素晴らしい出会い。神に感謝。この有望な青年たちに感謝の気持ちを表現することはありません。初期の喜びと苦しみを思い起こしながら、これからのDBVGの発展と繁栄を願いつつ、暖かく見守っていきたいと思います。

## 何時までも、“目の輝き”を!!

第2代事務局長  
田中 次生



私は、一年間だけ、DBVGの事務局の責任をとりました。長く学校に勤めており、毎日若い青年たちに囲まれた生活を送っていた私でしたが、DBVGに集まってくる青年たちには、一つの特徴がありました。それは“目が輝いている”ということでした。派遣される地域の人達と一緒に生活、生活を分かち合い、心を通わす体験が造りだすのでしょうか。

今年20周年をお祝いするDBVGですが、これからも“目の輝きのある”青年たちを、社会に送り出してほしいと心から願っています。神様の豊かな祝福を!!

## 味見ボランティアから、生涯ボランティアへ

第3代事務局長 オランド・プッポ



私は「DBVG」のことを聞くとすぐ、一瞬で連想する言葉はやはり「感謝」「喜び」「期待」「証明」「召命」「継続」「仲間」「交わり」「関わり」「分かち合い」「純粋」「勇気」「不安」「祈り」「献身」「寛大さ」「別れ」「涙」「つらさ」などあります。派遣される若者のことももちろんですが、しかしハードなスケジュールで目立たずに色々な準備の為に尽くすスタッフの方々や、犠牲も払って様々な方法で経済的に支えてくださる多くの恩人とまた派遣先でもここでも心配そうに祈りをもって見守ってくださるご両親や協力者などから連想されるイメージや言葉が湧いて

きます。全員がいてDBVGが成り立っています。役割は違いますが、全員がDBVGです。外国まで行って「貢献の味見」をしたボランティアの若者たちには、派遣先で行なわれた善よりも今からの日本社会や広い世界のためにそれぞれの人生に秘められている「凄じ種」が最高の実りだと信じて楽しみにしています。色々な「土」に蒔かれていたその「種」の実る「時」を待ち望みながら、味見ボランティアから生涯ボランティアも含む、より長く続く献身的なボランティアの芽生えを期待して祈り続けます。主の祝福と私たち皆の励ましを願いつつ……。

## 「自分を与える」という大切さ

第4代事務局長  
佐藤 直樹



3月11日、東日本大震災を受けて今、日本は「一丸」になろうとしています。そして皆が一つになって絆を深めるためには、どうしても全員で苦難の体験と痛みを共有しなくてはなりません。安穏と楽して「一丸」になることなどありえないからです。

DBVGで現地に何回か派遣され、皆で本当に苦労した年のグループのことが印象的に思い出されます。その苦労こそが今の自分自身の糧になっているからです。だから自分が損してでも、人の為、何か善きことの為に「自分を与える苦労」という奉仕が出来るか出来ないか…これが、共に生きるという「一丸」の意味だと思っています。DBVGが若者達に対して「苦労して奉仕に生きる」大切さを与え続ける活動であり続けますように…。

## 深い学びの場

第5代事務局長  
浦田 慎二郎



DBVG20周年心からおめでとうございます。この活動に関わらせていただいたことを深く感謝しています。

始める勇気と実行力を持っていた溝部司教様と若者たちと、20年の間ひたすら裏方で支えてくださった事務局の方々にもまず賛辞が向けられるべきと思っています。次に、現地で私達を暖かく迎えてくれたサレジオ会員たちと人々、活動に参加し積極的に関わってくれた若者たちに心から感謝したいと思っています。

私にとってもDBVGとの関わりの中で、教会や学校といった場所以外で、半分はカトリックとも特に関係のないごく普通の大学生たちと共に過ごし、分かち合い、関係を続けられていることは、言葉では言い表せない実りでした。宗教やさまざまな形を脱ぎ捨てて、人間にとって最終的に大切なことは何かを考えさせられる場でした。これからも多くの若者とサレジオ会員にとって深い学びの場であることを願っています。

## DBVGの実り

第6代事務局長 村松 泰隆



DBVGの海外派遣ボランティア活動は、実にわずか3週間に過ぎないものですが、体験してわかる通り、派遣先での人々の出会い、仲間との共同生活、様々な貴重な体験の分かち合いを通して豊かな気づきを得るこの3週間は、生涯忘れられないものとなります。そして、その3週間の真価は、帰国してからの各自の生き方に示されていくものです。あの3週間の体験を、「良かった」「す

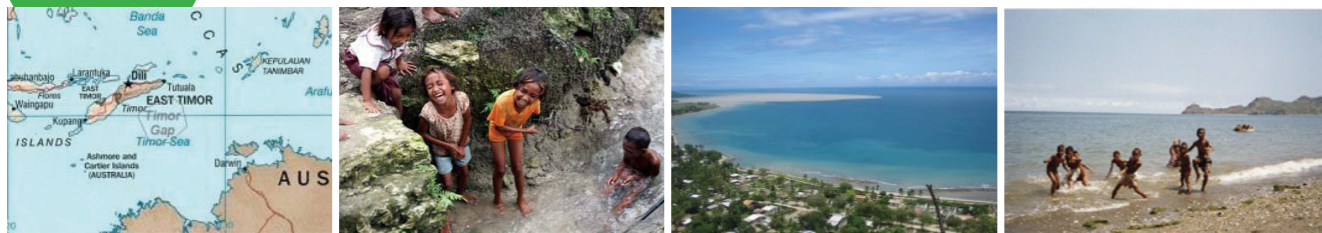
ばらかった」「楽しかった」というただの良い思い出にして留まらせておくのではなく、このDBVGの体験をきっかけにして、さらに自分に問い続けながら、気づきを深めながら、より豊かな生き方を志していくことを目指して欲しいと願います。なぜならDBVGの実りはそこにあるからです。DBVGをきっかけに様々な分野において、社会において、世界において大きく羽ばたいていってください。そして皆で豊かな実りをもたらしましょう。地球に笑顔が満ちるまで…。



# 最初の10年の歩み 1991年~2000年

1991

派遣先 (地域)	参加人数	主な作業
東ティモール (ディリ、ロスパロス、イヒヨマル他)	4名	職業訓練所の電気配線工事、水路整備、英会話指導



1992

派遣先 (地域)	参加人数	主な作業
パプアニューギニア (ニューブリテン島ラバウル プナボスコ)	7名	豚・牛小屋作り、豚の汚水槽作り
フィリピン (ネグロス島ドゥマゲータ)	5名	植苗、ペンキ塗り、養鶏場作り
ボリビア (サンタクルス州モンテロ)	8名	壁画作成、ペンキ塗り、歯磨き指導



1993

派遣先 (地域)	参加人数	主な作業
パプアニューギニア (ニューブリテン島ラバウル プナボスコ)	9名	電気作業場、鶏小屋の土台作り
フィリピン (ネグロス島ドゥマゲータ)	7名	作業場建設
ボリビア (サンタクルス州モンテロ)	5名	壁画作成、施設慰問



1994

派遣先 (地域)	参加人数	主な作業
ソロモン諸島 (ガダルカナル島タナガイ)	6名	木工室と裁縫室の建設
パプアニューギニア (ニューブリテン島ラバウル プナボスコ)	7名	農業工業学校のトイレとフェンス設置
フィリピン (セブ島バラニド)	10名	ドン・ボスコ施設の豚舎、鶏舎建設準備



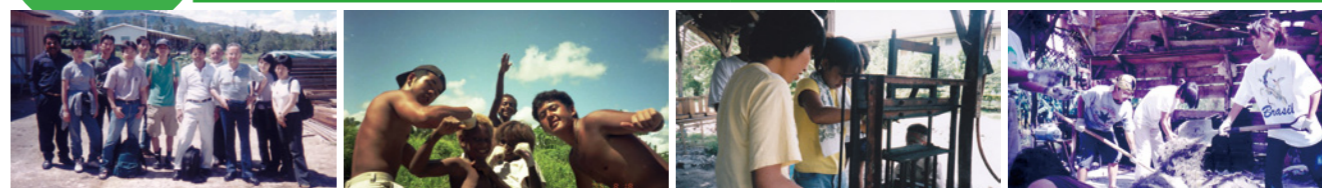
1995

派遣先 (地域)	参加人数	主な作業
ソロモン諸島 (ガダルカナル島タナガイ)	8名	シャワートイレ室の設置 (穴掘り等)
パプアニューギニア (シンブ州クンディアワ クムギ)	4名	職業訓練校のフェンス設置
フィリピン (ミンダナオ島マティ)	3名	職業訓練校の養鶏場作り、空手指導



1996

派遣先 (地域)	参加人数	主な作業
ソロモン諸島 (ガダルカナル島テレ)	7名	村の集会所建設、トイレ、排水管の設置
パプアニューギニア (シンブ州クンディアワ クムギ)	6名	技術訓練センター内の自動車修理設備建設
フィリピン (ミンダナオ島マティ)	5名	技術センター牛小屋、水路、宿舍の建設



1997

派遣先 (地域)	参加人数	主な作業
ソロモン諸島 (ガダルカナル島テレ)	6名	コート設置、コンテナの錆落とし・ペンキ塗り
パプアニューギニア (首都ポートモレスビー)	6名	職業訓練校の私道作り
フィリピン (ミンダナオ島マティ)	7名	職業訓練校の多目的ホール、教会建設準備



1998

派遣先 (地域)	参加人数	主な作業
ソロモン諸島 (ガダルカナル島テレ)	6名	多目的ホール建設、セメント作り、木材の運搬
パプアニューギニア (サンダウン州ヴァニモ)	6名	ドン・ボスコ高校の寮建設、ブロック運び



1999

派遣先 (地域)	参加人数	主な作業
パプアニューギニア (サンダウン州ヴァニモ)	9名	貯水池の設置、コミュニティホールの土台作り
大分県 小百合愛児園 (国内) [ソロモン諸島派遣中止のため]	3名	児童養護施設にて職員の手伝い



2000

派遣先 (地域)	参加人数	主な作業
パプアニューギニア (サンダウン州ヴァニモ)	7名	ドン・ボスコ技術学校スタッフ室の建設 フェンス設置





# 2001年度の派遣活動

派遣先 (地域)	参加人数	主な作業
ソロモン諸島 (ガダルカナル島テテレ) 8月9日~29日	10名	コミュニティーセンターの補修と仕上げ作業
パプアニューギニア (シンブ州クンディアワ クムギ) 8月12日~9月3日	10名	ドン・ボスコ テクニカルスクールの教室の塗装作業

## 2001年度 DBVGの活動

- 5月 インターナショナルデー
- 7月 Ciao28号発行
- 10月 ドン・ボスコ チャリティーバザー  
派遣活動報告会
- 11月 麻丘オフィス チャリティーバザー
- 12月 Ciao29号発行

- バザー活動 (会場)
- 東京カテドラル
- 川越・下井草・調布・碑文谷・三河島教会
- 横浜サレジオ学院
- 京王プラザホテル
- 桜新町商店街
- カナダ大使館
- 麻丘オフィス

### この年の3大ニュース

世界	日本	歌謡曲	流行語	アカデミー賞 受賞作品
アメリカで同時多発テロ発生	雅子さま 女児をご出産	「Dearest」 浜崎あゆみ	明日があるさ	ビューティフル・マインド
オアフ島沖で愛媛県立水産高校のえひめ丸が米原潜と衝突し沈没	「えひめ丸」が米原潜に衝突し沈没	「海鳴り」 田川寿美	狂牛病	ゴスフォード・パーク
中国がWTOに正式加盟	小泉内閣発足	「Paradox」 w-inds.	ドメスティック・バイオレンス (DV)	イン・ザ・ベッドルーム

### この年の3大ヒット

### この年の教会の動き

世界	日本
● 教皇ヨハネ・パウロ2世、大聖年の閉幕にあたり、使徒的書簡「新千年期の初めに」発表	● 日本司教団、「いのちへのまなざし—21世紀への司教団メッセージ」発表
● 教皇ヨハネ・パウロ2世、全世界の信者に向けて、「ラマダン」最終日の12月14日に平和のためムスリムと共に祈りと断食をするように呼びかける	● 常任司教委員会、公式声明「平和を愛するみなさんへ米同時多発テロに際して」発表



## 聖ヨハネ・ボスコ (1815-1888) について

イタリア人カトリック司祭。サレジオ修道会創立者。

1830年代イタリア北部は、産業革命の波が押し寄せており、職を求める多くの人々が都市部に集中していました。その人々の中には田舎から出稼ぎのために出てきた、貧しい子供たちも含まれていましたが、彼らが任せられる仕事は、きつい・汚い・危険なものでした。また仕事に就けなかったり、辞めさせられたりした若者たちは、故郷に戻ることも出来ず、行き場を失い、路頭に迷い、ある者は犯罪へと巻き込まれたりもしました。

この状況で放置された子供たちの生活に心を痛めていたドン・ボスコは、少年院の訪問や助けを求めてきた子

供たちとの出会いをきっかけに、夜間学校や教会の日曜学校を通して、若者たちの居場所を作り、自分の母親をはじめとする協力者の力を借りながら、救済活動を始めました。

寄宿舎、職業訓練校などの事業を立ち上げて若者たちの成長を見守り、また継続していくために、彼はサレジオ会という修道会を設立しました。そこから、ドン・ボスコと同じ心を持つ多くの宣教師が世界中に広がり、日本には1926年チマッティ神父を団長とする宣教師が来日しました。現在、日本では社会福祉事業、教育事業、出版事業などに取り組んでいます。若者たちの育成をめざすサレジオ会の事業の一つとしてDBVGも1991年から活動を始めています。

